

「外郎売り」とは> 物売りの口上で連続した早口言葉を披露する、歌舞伎の演目のひとつ。アナウンサーや役者のトレーニングによく使われます。流暢に言えるように練習すると、舌の筋肉が鍛えられ、話し方が滑らかになります。

せっしゃおやかた たちあ ぞんじ
拙者親方と申すは、お立会いのうちにご存知のおかたもござりましょうが、

えど た にじゅうりかみがた そうしゅうおだわらいっしまち す
お江戸を発って二十里上方、相州小田原一色町をお過ぎなされて、
あおもちょう のぼ い らんかんばしとらやとうえもん いま ていはつ
青物町へ登りお出でなされるれば、欄干橋虎屋藤右衛門ただ今は剃髪いたして
えんさい なの
円齊と名乗りまする。

がんちょう おおつごもり て い こ くすり ちん くに とうじん ういろう ひと
元朝より大晦日まで、お手に入れまする此の薬は、むかし陳の国の唐人、外郎という人、

ちょう き みかど さんだい おり こ くすり こ
わが朝へ来たり。帝へ参内の折から、此の薬を深く籠めおき、

もち いちりゅう かんむり すきま と い
用ゆるときは一粒ずつ、冠の隙間より取り出だす。

な みかど たまわ
よって、その名を帝より「とうちんこう」と賜る。

もじ もじ いただ す にお か ちゅう
すなわち、文字には「頂き、透く、香い」と書いて、「とうちんこう」と申す。

いま こ くすり こと ほか せじょう ひる ほうぼう にせかんばん いた
ただ今は此の薬、殊の外世上に広まり、方々に偽看板を出し、

おだわら はいだわら だわら すみだわら いろいろ もう
イヤ、小田原の、灰俵の、さん俵の、炭俵のと色々な申せども、

ひらかな も しる おやかたえんさい
平仮名を持って「ういろう」と記せしは、親方円齊ばかり。

たちあ あたみ とう さわ とうじ い
もしやお立会いのうちに、熱海か塔の沢へ湯治にお出でなされるか、

いせごさんぐう おり かなら かどちがい
または伊勢御参宮の折からは、必ず門違いなされまするな。

のぼ みぎ かた くだ ひだりがわ はっぽう や むね おもて み むねぎよくどうづく
お登りならば右の方、お下りなれば左側、八方が八つ棟、表が三つ棟玉堂造り

はふ まく きり ぞもん ぎしやめん けいざただ くすり
破風には菊の桐のとうの御紋を御赦免あって、系図正しき薬でござる。

さいぜん かめい じまん もう ぞんじ かた しょうしん こしょう まるの
イヤ、最前より家名の自慢ばかり申しても、ご存知ない方には正身の胡椒の丸呑み、

しらかわよふね いちりゅうた きみあ め
白河夜船、さらば一粒食べかけて、その気見合いをお目にかけてみましょう。

くすり した うえ ふくない おさ
まず、この薬をかように舌の上のせまして、腹内へ納めますると、

い い しん はい かん くんぶうのんど き
イヤ、どうも言えぬは、胃、心、肺、肝がすこやかになりて、薫風喉より来たり、

こうちゅうびりょう しょう ぎょちょう きのこ めんるい く あ ほか
口中微涼を生ずるがごとし。魚鳥、茸、麺類の食い合わせ、その他

まんびょうそっこう かみ
万病速効あること神のごとし。

くすり だいいち きみょう した ぜにごま に
さて、この薬、第一の奇妙には舌のまわることが銭独楽がはだして逃げる。

した だ や たて
ひょっと舌がまわり出すと、矢も楯もたまらぬじゃ。

そりゃそりゃ、そらそりゃ、まわってきたわ、まわってくるわ、
のんど ぜつ げ しおん ふた くちびる けいちよう
 アワヤ喉、サタラナ舌に、カ牙サ歯音、ハマの二つは唇の軽重、

かいごうさわ
 開合爽やかに、あかしたなはまやらわ、おこそとのほもよろを、
ひと ぼん ぼんごめ ぼん
 一つへぎへぎに、へぎほしはじかみ、盆まめ、盆米、盆ごぼう
つ たで つ まめ さんしよう しょしゃざん しゃそうじよう
 摘み蓼、摘み豆、つみ山椒、書写山の社僧正

ここめ
 粉米のなまがみ、ここめ 粉米のなまがみ、ここめ こん粉米のこなまがみ

しゆす しゆす おや かへえ こ かへえ
 縹子ひじゆず、縹子、しゆっちゃん、親も嘉兵衛、子も嘉兵衛、

おや こ おや くり き ふるきりぐち
 親かへい子かへい、子かへい親かへい、ふる栗の木の古切口。

あまがつば ばんがつば きさま かわぎやはん われ かわぎやはんは
 雨合羽か、番合羽か、貴様のきやはんは皮脚絆、我らがきやはんも皮脚絆、

ばかま みはり む
 しっかわ袴のしっぽころびを、三針はりなかにちょっと縫うて、

ぬうてちょっとぶんだせ、かわら撫子、なでしこ のぜきちく 野石竹。

によらい によらい み によらい む によらい
 のら如来、のら如来、三のら如来に六のら如来。

ちよっとさき こぼとけ ほそどぶ
 一寸先のお小仏におけつまづきやるな、細溝にどじよによるり。

きよう なまだら なら まながつお しごかんめ
 京の生鱈、奈良なま学鯉、ちよっと四五貫目、

ちята ちята た ちята
 お茶立ちよ、茶立ちよ、ちやっと立ちよ茶立ちよ、

あおたけちやせん ちや た
 青竹茶筴でお茶ちやっと立ちや。

く く なに く こうや やま こぞう
 来るは、来るは、何が来る、高野の山のおこけら小僧。

たぬきひやっぴき はしひやくぜん てんもくひやっばい ぼうはっぴやくほん
 狸百匹、箸百膳、天目百杯、棒八百本。

ぶぐ ばぐ み あ ぶぐ ばぐ む
 武具、馬具、ぶぐ、ばぐ、三ぶぐばぐ、合わせて武具、馬具、六ぶぐばぐ。

きく くり みきくり あ きく くり むきくり
 菊、栗、きく、くり、三菊栗、合わせて菊、栗、六菊栗。

むぎ み あ むぎ む
 麦、ごみ、むぎ、ごみ、三むぎごみ、合わせて麦、ごみ、六むぎごみ。

ながし ながなぎなた た ながなぎなた
 あの長押の長薙刀は、誰が長薙刀ぞ。

ごま え ごま まごま まごま
 向こうの胡麻がらは、荏の胡麻がらか、真胡麻がらか、あれこそほんの真胡麻がら。

がらびい、がらびい風車、おきやがれこぼし、おきやがれ小法師、
ゆんべもこぼして又こぼした。

たあぶぽぽ、たあぶぽぽ、ちりから、ちりから、釣ったっぽ、たっぽたっぽ一丁だこ、
落ちたら煮て食お、煮ても焼いても食われぬものは、
五徳、鉄球、かな熊童子に、石熊、石持、虎熊、虎きす、
中にも、東寺の羅生門には、茨木童子がうで栗五合つかんでおむしゃる、
かの頼光のひざもと去らず。

鮎、きんかん、椎茸、定めて後段な、そば切り、そうめん、うどんか、愚鈍な小新発地。
小棚の、小下の、小桶に、こ味噌が、こ有るぞ、小杓子、こ持って、こすくって、
こよこせ、おっと合点だ、心得たんぼの川崎、神奈川、保土ヶ谷、戸塚は、
走って行けば、やいとを摺りむく、三里ばかりか、藤沢、平塚、大磯がしや、
小磯の宿を七つ起きして、早天早々、相州小田原とうちんこう、
隠れござらぬ貴賤群集の、花のお江戸の花ういろう、

あれあの花を見てお心をおやわらぎやという。

産子、這う子に至るまで、この外郎の後評判、御存知ないとは申されまいまいつぶり、
角出せ、棒出せ、ぼうぼうまゆに、臼、杵、すりばち、ばちばちぐわらぐわらぐわらと、
羽目はずして今日お出でのいづれも様に、上げねばならぬ、売らねばならぬと、
息せい引っぱり、東方世界の薬の元締め、薬師如来も照覧あれと、ほう敬って、

ういろうは、いらっしやりませぬか。

●外郎売を使った話し方エクササイズ（鏡を見ながら行ってください）

・1st Step

カッツェツ中心に練習しましょう。口の開閉は母音の口の形を意識しながら行います。
早くなくてもOKですがはっきりと発声しましょう。

・2nd Step

成功者の声＝低めの声で抑揚や間をを意識しながら、発声します。
芝居のように調子良さもできるだけ加えてください。

・3rd Step

表情と視線をつけます。口角を上げて、アイコンタクトを意識＝相手の説得を意識して。